



『終盤難しいコンディションの最中、追い上げを見せ 8 位入賞』



シリーズ名 : 2023 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名 : 2023 AUTOBACS SUPER GT Rd.8 「MOTEGI GT300km RACE GRAND FINAL」

レース距離 : 1周 4.801km×63周 (302.5km)

11月4日(土) 天候 : 晴・曇 / 路面 : ドライ

11月5日(日) 天候 : 晴・曇・小雨 / 路面 : ドライ/ウェット

11月4日(土)

公式予選 : GT500 クラス 14位 : 1:37.344

曇空の中で開催される最終戦もてぎ。最終戦で全車サクセスウェイトが下ろされてイコールコンディションで行われるレースとして、19号車は少しでも上位で決勝を向えるべく、爆走を誓う。

昨年は予選2番で、ポールを逃したサーキット。まずはポールを目指しドライバーはマシンに乗り込んだ。午前中の公式練習では、タイヤの確認・セットの確認・ロングセットの確認をトータルで28周周回し、1:38.796のタイムで15番手となった。

持ち込みセットが本日のコンディションと合わず、午後に向けては大幅にセットを変更し、予選に挑む事になった。

午後は、気温/路面温度 23度/29度と低く、予選が進むにつれ、どんどん下がる予測となっていた



が、コンディションは昨年と一緒。

Q1 アタッカーは国本選手。Q1 開始後にコースに出てくる車がいる中、19 号車は他車と比べて遅いタイミングでコースイン。

1 分 36 秒前半が Q1 突破に必要なタイムとなる中、のこり 1 分を切ったあたりで 1 回だけのタイムアタックに入った 19 号車は、タイムが 1:37.344 と振るわず暫定 13 位。

Q1 の結果は 14 位となり、Q1 を突破する事が出来ませんでした。

Q1 の結果は総合優勝がかかっている 3 台のうち、1 台が脱落する中、3 号車がトップを取り、

以下、14-100-24-36-23-17-64-

(以上 Q1 通過) -16-1-8-38-37-19-39

Q2 は総合優勝がかかった 3 台のうち、

Q1 をトップ通過した 3 号車が Q2 もトップを

とり、ポールポジションを奪取。以下 17-36-

24-23-100-64-14





予選コメント

【坂東監督】



『予選はダメでした。今原因を探しています。
最後の集大成にふさわしいレース結果を、そして表彰台へ向け爆走していきます。
皆様の応援、宜しくお願いいたします。
明日は笑顔で終わりたいです。』

【国本選手】



『予選は 14 番手でした。朝のフリー走行から状況が苦しく、いい方向に向くようにチームと改善策を話し合ったうえで予選に挑みました。しかし好転せず、厳しい予選となってしまいました。明日後ろからのスタートですが、追いつけていけるように今日の夜もしっかりとチームでミーティングして準備してきました。いい方向に持っていけるように明日ドライバーも頑張るので、応援よろしくお祈りします。』

【阪口選手】



『予選終了しました。結果は 14 番手ということで悔しい予選となってしまいました。フリー走行からフィーリングが良くなく、持ち込んできたタイヤとセッティングがうまくマッチしませんでした。今年の予選のパフォーマンスは高かったので、そこに近づけるよう調整を行ったうえで予選に臨んだのですが、そこも機能せず、悔しい予選となってしまいました。そこからまたチームで話し合って明日に向けてはクルマが機能するようにしっかり準備を行ったので、明日は後方からにはなりますが、あきらめずに最後まで全力で走り切りたいと思います。応援よろしくお祈りします。』

MedeSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTEC

Jms

DIESEL AID

FUJITSUBO

BRIDE

宮田自動車商会



WellVets
— Animal Welfare Clinic —

KDC

GLOBAL

本田鉄工株式会社

Blue Goats

Blue Goats

KTC

Logics

RACING PROJECT
BANDOH

11月5日(日)

決勝：GT500 クラス 8位

曇天のモビリティリゾートもてぎで開催される最終戦は全車サクセスウェイトを降ろし、イコールコンディションで行われるレースでは、各メーカー1台ずつに選手権獲得のチャンスがある中、一矢報いる為にも、表彰台のトップを目指し、爆走を誓う。

午前中に行われたウォームアップでは決勝を見据えた昨日とは違うセットアップチェック走行に徹し、10周の周回を1:40.448のタイムにて6番手となる。

スタート前には、毎年恒例となったモビリティリゾートもてぎの上空にて航空自衛隊のF2によるデモフライトが行われ、サーキットに華を添えた。

スタートドライバーは国本選手。決勝直後の気温/路面温度は23度/28度となる。

午後1時、栃木県警の国産スポーツカーのバトカーと白バイとのパレードラン後、フォーメーションラップを1周経てレースの火ぶたが切られた。何台かの順位の入替えがあったものの、19号車は順位を保ったままオープニングラップを終え、レースが進んでいく。

序盤は、トップから等間隔で各車周回を重ねていく。ただ、前の37号車との間隔が少しずつ空いていく。

5周目から、コースの場所によっては雨が降り出してきた。7周目に39号車にパスされて15番手に後退する。9周目にはメインストレート付近で、目に見える程の雨粒が振ってくるのだが、局部的な降雨のため、まだレースに影響が出ていない。

9周目にペースの落ちた64号車をパスして19号車は14位に、11周目には24号車をパスして13位に、さらに14号車と100号車





との接触で 14 号車がコースアウトした為、さらに一つ順位を上げて 12 位に。

18 周目に、11 周目の接触がペナルティーとなり 100 号車はドライブスルーの為、19 号車は 11 位に。前の 37 号車とのタイム差は約 6 秒。レースは 1/3 を迎え、各車ピット作業に入中、19 号車は 23 周目に早めのピットインを選択。ドライバーチェンジとフルサービスのピットを行い、暫定 15 位でコース復帰。

コース上で降っていた雨はいつの間にか上がり、30 周目には 19 号車は暫定 13 位。

36 周目に再び雨粒が見える程度の雨が降っては来たものの、やはりレースに影響するほどではない。37 周目の 19 号車の順位は、暫定 12 位（2 台ピット未消化）。

42 周目に全車ピットインとなり、19 号車は 11 位。前の 38 号車との差は 2 秒を切る。

44 周目の 1 コーナーにて 64 号車と 300 クラスが接触し、64 号車がコースアウト。マシンの損傷が激しいために回収のため FCY が入る。

46 周目に FCY が解除された直後、前の 38 号車に近づいた 19 号車が 10 位を奪取するため、38 号車に襲いかかる。さらに

51 周目に後続の 100 号車も加わり、10 番手争いが熾烈となる。

残り 11 周。メインストレートに大粒の雨が降り出すと、各車ワイパーを回し始め、タイムが落ち始め、残り周回数と天候との賭けになる中、残り 9 周目、ペースが落ちてきた 9 位の 16 号車に、38 そして 19 号車が追いつき、程なく 2 台でパスし、19 号車が 10 位となり、さらに 38 号車の背後に迫ると、残り 7 周で 38 号車をパスして 9 位に上がる。

残り 6 周目に強くなってきた雨に対応する為にレインタイヤに履き替えるチームが出る中、後続の 14 号車が 38 号車、そして 19 号車に襲いかかり 9 位の座を明け渡すことになったが、残り 5 周、ペースが落ちた前の 37 号車をパスして 9 位に戻る。しかし、雨はさらに強く降りだし、トップの 3 号車が単独スピン、コースアウトしてしまい、直後に FCY が出てしまう。3 号車はコース復帰するものの、順位を 13 位まで落とし、19 号車は 8 位となる。

残り 4 周で FCY が解除され、雨はだんだんと弱くなっていく中、阪口選手は 19 号車をゴールに向けて爆走し、8 位にてチェッカーを受けることとなりました。

レースは、トップの 3 号車が序盤から後続との間隔を空けていく中、23 周目に 2 位の 17 号車をパス





した 36 号車が 2 位となるが、3 号車はさらなる逃げを打つが、天候の急変で残り 5 周で単独スピンし 36 号車にトップの座を明け渡してしまう。その後、トップとなった 36 号車は難しい路面を制し、トップでチェッカーを受け、優勝とともに年間チャンピオンを獲得する事となりました。

順位結果は 36 - 23-17-1-8-14-39-19-37-100-38-16-3-24-(以上完走)-64 となりました。

2023 年シーズは、Round.4 SUZUKA にて 7 年ぶりの優勝を獲得し、ドライバーズポイント 30Pt で 12 位、チームポイント 49Pt で 11 位となりました。

決勝コメント

【坂東監督】



『年間を通して、スポンサーの皆様、そしてファンの皆様の応援を受け、無事にシリーズを乗り切ることが出来ました。感謝いたします。本当にありがとうございました。』

今日は課題もありましたが良いところもありました。来年に繋げていきます。

2 人のドライバーには、一年間、大きなクラッシュも無く、勝利もあり、本当に感謝しかありません。もっと強くなるようにオフシーズンのテストを頑張ります

応援隊の旗とマシンの写真は茂木の象徴ですね。』

【国本選手】



『前半ステントを担当致しました。ここ数年の茂木のフィーリングとは違いかなりタフなレースになりました。後半ステントでは阪口選手がウエット路面の中、オーバーテイクを何度も見せてくれたのでコンディションの変化によって強いタイヤのアピールは出来たと思っています。今年も沢山の応援ありがとうございました。今年も 7 年ぶりの優勝をチームと共に獲得が出来、チーム全員が目標に向かって一つになっているのを感じられる一年でした。これからもよろしくお願い致します。』



【阪口選手】



『苦しいレースでしたが力強く戦う事が出来ました。コンディションの変化で前とのギャップや後ろとのギャップも変わるので良いところも確認出来、課題も確認出来たレースでした。立川さんのラストランを一番近いところで見れた時は考え深いものがありました。今年は昨年の課題のアウトラップやウォームアップを中心にタイヤ開発に携わってきました。鈴鹿の1勝は開発陣の努力のお陰です。今年も沢山の応援ありがとうございました。』

SUPERGT

<https://supergt.net/pages>

BANDOH

<http://www.bandohracing.com/>